

かとかり通信 第13号



発行日：平成30年6月1日 発行人：かとうファミリークリニック

ワクチン(予防接種)で防げる病気があります

日差しもだんだん強くなり、半袖でも汗ばむ陽気になってきました。

3月下旬からゴールデンウィークにかけて、名古屋市周辺で麻疹(はしか)の報告が相次ぎました。5月17日以降の報告はなく(5月31日現在)収束に向かっているように思われます。麻疹は感染力が非常に強く(※)、免疫のない人が感染すると90%以上が発症するとされています。このため世界的に麻疹対策が強化されており、つい近年まで「麻疹輸出国」とまで言われた我が国においても、2015年にはWHOから麻疹排除が認定されました。しかし、今回のように海外の流行地域からの侵入に対して十分な防御はできていない状態です。というのは、麻疹に対する十分な免疫を得るためには2回の予防接種が推奨されていますが、年齢によってはまだ1回接種の世代の方が多くいるからです。

そこで麻疹の予防接種について、世代別にまとめてみました。この機会に母子手帳や感染歴を確認して対策をしましょう。

●1991年以降生まれの方は定期接種2回の世代です。母子手帳で2回接種を確実に完了しているか確認し、接種漏れがある方は済ませましょう。

●1977～1990年生まれの方は定期接種1回の世代になります。麻疹にかかったことが確実な方は接種は不要ですが、基本的に2回目の接種が推奨されます。抗体価を測定し、低い場合は接種するという方法も可能です。

●1977年以前生まれの方は定期接種のない時代の世代です。ただ感染力が非常に強いので、実際にかかった方や抗体を持っている方が多い世代とも言えます。麻疹にかかったことが確実でない方や、小さなお子さんのお世話をされるような方は、抗体価を確認し、低ければ1回接種するのが良いでしょう。

※麻疹の感染力が強い理由

麻疹ウイルスは大きさが小さく、通常のマスクはすり抜けてしまい、十分に予防することができません。また、咳やくしゃみなどでの飛沫感染で及ぶエリア(くしゃみでウイルスは2～5mくらい飛びます)よりも広範囲にウイルスが飛散する(空気感染)ため、免疫がないと同じ空間にいただけで感染するといわれています。空気感染をおこすのは麻疹のほかには水痘(水ぼうそう)と結核菌です。

予防接種は「適切な時期に適切な間隔で適切な回数」を接種することが重要です。

当院では麻疹以外の予防接種や抗体検査のご相談にも応じております。

スタッフより

乗り物好きな院長は、岐阜で連接バスに乗ってきました。国内では限られた場所しか走っていません。車両も日本国内では製造されておらず、なんとメルセデス・ベンツ製です。

車内も向かい合わせのシートがあったり、シートの色合いや座り心地も日本のバスにはない雰囲気でした。

カーブでもスムーズに走ります。車体をくねらせて走る様子は、昔岐阜市内を走っていた路面電車のような感覚でした。

運転手さんはカメラで側方や後方、そして前後に長い車内を確認しながらの安全運転でした。バス停近くの違法駐車を大きく回り込んで避けないといけないので、大変そうでした。

